

大会時・コロナ禍での取組

- ・2018年12月：2020TDM推進プロジェクトの説明会に参加後、社内の重要会議として「準備委員会」を設置し、取組を推進 ※ 経営会議に報告

人の流れ

きっかけ 以前より実施 オリパラ コロナ禍

※オリパラに備えて準備し、コロナ禍で加速した

- テレワーク・・・実施率7割。入社/在宅の状況を管理し共有
- オフピーク出勤・・・コアタイム等は各部署で設定
- サテライトオフィス・・・事業所や営業所を活用
- オンライン会議・・・社内、社外とも実施
- 書類等の電子化・・・FAXを電子化して送受信できる仕組みを導入

物の流れ

きっかけ 以前より実施 オリパラ コロナ禍

- 納入時間の変更
 - リードタイムの延長
 - 簡易な検品レス
- 2019年の交通対策テストに合わせ、製配販で連携して試行を実施
- 取引先に大会時の配送への影響を説明
… 大会輸送影響度マップや経路探索システムを活用し、具体的な影響を論理的に説明

その他物流効率化に向けた取組

- 長距離輸送での中継拠点の活用・・・ドライバーの交代等
- 共同輸送・・・モーダルシフト含めた他社（異業種含む）との協働

【東京2020大会を振り返って】

- ・競技会場が分散しており、さらに会場毎に競技の実施日時が異なることが、対応が難しかった点。
- ・2020年5月には自社の対策をまとめていた。大会延期で発生した期間に、さらに会場別に納品の計画ができた。
- ・製配販が連携し、大会時の課題について共通認識を持つことができた。将来に向けて一緒に考えるきっかけのひとつとなった。

取組ポイント

- 業務を洗い出し、出社が必要な業務を精査
- 経営層から音頭を取り、会社として柔軟な業務体制を推進

取組ポイント

- 取引先と連携して試してみることで、納品時間変更に伴う課題を明確化
- 大会やコロナ禍をきっかけに、業界全体の課題について共通認識を持ち、将来に向けて一緒に検討

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク
- オフピーク通勤
- サテライトオフィス
- オンライン会議
- 書類等の電子化

物の流れ

- リードタイム延長や簡易な検品レス、納品時の付帯作業の軽減等について、引き続き、サプライチェーン全体で連携して取組を検討・実施
- リードタイム延長については、製配販3層連携し、受発注時間の工夫や関連する納品期限の緩和なども合わせて進めていく
- デジタル化やフィジカルインターネット（※）等を活用し、人に依存しない対応の検討
(※) 物流リソースをシェアして、最も効率的なルート上にある車両や施設を利用して荷物を運ぶ仕組み
- 大きなイベント時の対応検討にあたっては、いつ・どこで・何時に開催されるのか、人と車の動き、交通規制の情報等が必要